

MJOT 会報

ご挨拶 (久しぶりのハンガリー)

在ハンガリー日本国大使館 一等書記官 安田 国彦

皆様、あけましておめでとうございます。そして、はじめまして。在ハンガリー日本大使館で文化・広報業務を担当しています安田と申します。

去年の3月末ハンガリーに赴任してきて以来、早いもので10ヶ月が経ちました。ただハンガリーにはすでに1996年から2001年秋までの約5年半勤務していましたので、今回8年半ぶりにハンガリーに戻ってきたということになります。

2001年秋にハンガリーを去って以降、東京の外務省本省で4年間、その後、フィンランドにある日本大使館で約4年半勤務しました。フィンランドでも文化・広報業務を担当していました。

久しぶりに住むことになったハンガリーについての感想ですが、目新しいものはもう特にありませんので、「なつかしい」（この単語は欧米語には訳せないと言われてますね）という思い以外、これといった発見、感激、新鮮な驚き、といったものはありません。ただ、今のハンガリーを、10年前のハンガリーとフィンランド（北欧）と比較をして眺めるのを楽しんでいる、という感じでしょうか。そういった点から以下に少し。

まず、今回ハンガリーに来て驚いたのは、物価が見事に2倍になっていたことです。例えば、かつてからよく通っているとあるイタリア・レストランでは10年前はスパゲティは700~800Ftでした。それが今では1500~1600Ftに、また、バス・地下鉄・トラムのチケットも、あの頃は140Ftくらいだったと思いますが、いまや300Ft以上、まさに倍です。買い物の際に意識して商品の値段を見てみるとたいがい、かつての2倍になっていることに気づきます。ただ、10年前は街を歩いても、特に衣類などで買いたいと思うものがあまりなかったのが、今では、いろんなブランドの様々な商品が町中にあふれていて、買い物の楽しみを当地でも感じられるようになりましたので、赴任した頃に強く感じていた「物価が倍になってしまった」という不満も最近ほとんどなくなっています。それに、北欧と比べれば、まだまだ物価も安い方ですし。

私はフィンランドで働いていた時も文化・広報事業関係の業務を担当していたと書きましたが、フィンランドの日本語教師会の方たちともお付き合いがありました。フィンランドでも日本語教師会主催で日本語弁論大会（「日本語で語る会」という名前でした）がありましたが、フィンランドでは、このような催事では生徒たちに順位を付けないという習慣があるとかで、出場者に順位をつけず、日本語に堪能なフィンランド人がすべての出場者のスピーチに対して講評を行います。そして、すべての出場者たちは全員何かしらの賞品（日本語辞典・教材や、スポンサーからの食事券・商品券など）を受け取っていました（日本行きの航空券といった高額な賞品はありません）。また、日本語能力試験（JLPT）はヘルシンキでも実施されていますが、日本語教師会が



実施機関となっていて、数少ないメンバーで「手作り」の準備作業、当日の試験実施を行っていました。

などなど、紙面の都合上この辺にしておきますが、私は、現在は、日本語教育関係の業務には直接には担当していませんが、広報・文化班長として、今後、MJOT の皆さまと会う機会もあるかとおもいます。その際には、是非最近のハンガリーでの日本語教育事情やハンガリーの教育事情全般などについてお話を伺いたいと思っています。今後ともよろしくお願いたします。

「日本文化発信プログラム（J-CATプログラム）」について

在ハンガリー日本大使館 J-CAT 調整員 後藤将太

日本文化発信プログラム（以下 J-CAT プログラム）ボランティア 7 名は、2009 年 1 月 28 日にハンガリーに到着し、語学学習等の 1 週間のブダペストでの研修を経て、2 月 6 日に大使館で行われた「日本祭り 2009」を皮切りに J-CAT ボランティアとしての活動をスタートさせました。

J-CAT プログラムは、青年海外協力隊の後継プログラムと見なされていました。しかし、JICA 事務所が長い経験とノウハウに基づいて安定した運営をしていた青年海外協力隊事業と違い、新規プログラム故の試行錯誤の中でのスタートであったため、当初いろいろな問題が生じ、苦しい時期がありました。ボランティアたちは「自分たちが何を期待され、何をしていけばいいのか」が分からず悩み、ストレスを抱え、不平・不満をもらすことも多々ありました。

しかし、ボランティアたちは、配属先での通常業務やハンガリーでの日常生活に慣れてくるにつれ、徐々に個々の持ち味や能力を発揮し始め、日本語教育に関しては、当国での日本語学習者の増大に貢献し（これまでの約 1400 名から約 1800 名）、日本文化発信活動では、2 年間で大小 60 件を超える日本文化紹介行事に関わってきました。特に、ジュール、クーセグ、ソンバトヘイ、ケチケメート、ナジカニジャ、ヴァーツなど J-CAT ボランティアが派遣された都市以外でも、日本文化を広めることに一役買ったことは本プログラムの大きな成果でした。

ボランティアたちのこのような活躍にもかかわらず、本プログラムは現派遣ボランティアの帰国をもって終了という大変残念な結果となりましたが、ボランティアたちは、本プログラムでの活動を通じ、これまで前例がないような数多くの業績を残してきました。このことから本プログラムは大成功のうちに幕を閉じることができたと思えます。

プログラム開始からこれまで、様々な困難に直面しましたが、多方面の方々から多大なるご支援をいただいたおかげでここまでやってこられました。この場をお借りし、全ての方々へ厚く御礼申し上げます。



2009年2月日本祭り 2009にて



2011年1月日本語教育関係者新年会にて

MJOT 結成の頃

ブダペスト商科大学 佐藤紀子

ハンガリー日本語教師会も、早いもので発足してから 10 年経ちました。当時のヨーロッパでは MJOT のような日本語教師会はちょっと珍しい存在でした。現地の日本語教師の自主的な発案、目的（ハンガリーや日本の公的機関への働きかけ、協働プロジェクトの企画実施、情報交換、現地のニーズに合った研修会の実施）、発起人の構成（小学校から大学までの母語話者と非母語話者の現地雇用教師）という、いずれの点でもとてもユニークであったと思います。

なぜこんなユニークな日本語教師会がハンガリーにできたのでしょうか。そもそもの事の発端は、教師会結成の前年、2000 年にヘルシンキ工科大学で開かれたヨーロッパ日本語教育シンポジウムの総会で、ブダペスト商科大学が 2002 年のシンポジウム開催地に立候補したことでした。当時、ヨーロッパ日本語教師会のハンガリー会員は確か 4~5 名（内商科大 3 名）だったと思います。商科大では、すでに 1997 年にヨーロッパ日本学研究会 (EAJS) の総会を開催していましたが、日本語教師をまとめる組織のないハンガリーで世界各国から 150 名前後の参加者が集まるシンポジウムを開催できるのか、当事者自身少々不安でした。しかし、この立候補は、他に対抗馬が出ず、あっさりと通ってしまったのです。逆説的ですが、国内に日本語教師をまとめる組織がないという状況こそが、東欧で初めての日本語教育シンポジウムの開催に向けて MJOT 結成へと私達を後押ししたように思えます。

その頃、ハンガリーにはすでに国際交流基金の事務所が開設され（1991 年）、青年海外協力隊の日本語教師派遣も始まり（1992 年）、教育機関や教師への様々な支援が始まってほぼ 10 年経っていました。しかし、機関の枠を超えて集まり、悩みを話し合ったり、教師の要望を取りまとめて公的機関に提言を行ったり、また協働プロジェクトを企画実行するような日本語教師の自律的組織はありませんでした。教師同士のつながりといえば、所属機関内か、特定の知り合い同士、仲間内に限られていました。

教師数、教育機関数が増えるにつれ、機が熟したと言えるかもしれません。「井の中の蛙」になりたくない教師達が出てきたのです。大きな国際的イベントの開催は、井戸から飛び出す格好のチャンス、人を組織するためのいわばショック療法です。まず大きな具体的目標を掲げ、そのために有志を集め、コアの組織をつくります。そして、その後、広く人材を募り、有志の輪を広げていくことにより、組織を発展へと導くという方法です。シンポジウム開催は、そんな意味を持っていました。

こうして発足した教師会ですが、会員一人ひとりが会の運営に関わり、課題や問題を率直に話し合う、運営委員会にどんどん要望を出していく、プロジェクトを提言していくという姿勢が、これからの教師の孤立を防ぎ、質のレベルアップや教師の労働条件の向上につながっていくのではないのでしょうか。MJOT は、今年、新しい 10 年に向けて船出しましたが、日本語学習人口が着実に増えている現在、新しい環境に合わせて MJOT がどのように発展していくのか、日々試されています。ハンガリーの個人主義と日本の集団主義をうまく絡ませて会員相互の利益につながるような会になることを願っています。

Japánnyelv-oktatás a Szent László Gimnáziumban セント・ラーズロー^{こうこう}高校の日本語教育^{にほんごきょういく}

ゴダ・リッラ・ボローカ (Goda Lilla Boróka・^{にほんごきょうし}日本語教師)

Idén harmadik éve működik japán szakkör gimnáziumunkban a Japán Alapítvány – Együtműködési Fórum támogatásával. A 45 perces foglalkozások alkalmával a diákoknak módjuk van megismerkedni a japán nyelvvel és kultúrával.



Csoportonként heti három alkalommal tartunk szakköri órákat, melyeken a fő célkitűzés a nyelv elsajátítása, de nem megyünk el szó nélkül a japán kultúra, irodalom, történelem főbb sajátosságai mellett sem. Három nyelvi szinten folyik az oktatás: külön csoportot alkotnak a teljesen kezdők vagy újrakezdők (10 fő), a középhaladók (akik a megelőző évben kezdtek, 3 fő), és a haladók (8 fő). Lehetőség van az abszolút kezdő szintről eljutni a középfokig (L4-es nyelvvizsgaszint), ahogy arra előző évben példa is volt: egy diákunk a Károli Gáspár Református Egyetemen folytatja tovább japán nyelvi tanulmányait.



A sokszínű japán kultúra bemutatását szakkörön kívüli klubtevékenységeken bonyolítjuk le, melyek során meghívott előadók ízelítőt adnak az érdekesebbnél érdekesebb témákból.

Igyekszünk meglátogatni Japánnal kapcsolatos rendezvényeket és intézményeket (pl. Japán Alapítvány könyvtára), tájékoztatjuk a diákokat az egyéb őket esetleg érintő eseményekről (Szónokverseny, Japán Tábor, filmvetítések).



セント・ラーズロー高校での日本語教育は国際交流基金の支援もあり、本年度で3年になりました。生徒たちは三つのグループに分かれ、レベル別に日本語の勉強ができます。文法だけでなく、日本文化・文学・歴史などのクラブ活動も興味のある生徒のために行われます。生徒たちへ高校以外の日本文化に関するいろいろな行事やイベントのお知らせもしております。

Európa 2000 Középiskola ヨーロッパ^{こうこう}2000高校

バラニャイ・ペーテル (Baranyai Péter・^{にほんごきょうし}日本語教師)



Az Európa 2000 Középiskolában a 2008/2009-es tanévben indult el a diákok kérésére a japán-nyelv oktatása. A következő nyáron sikeresen pályáztunk a Japán Alapítványnál, aminek köszönhetően három éven keresztül biztosított, hogy évről-évre több japán-csoportot tudjunk elindítani.

A japán oktatás minden évfolyamban heti 4 órában zajlik, ebből 2 órát a nyelvvel és 2 órát a kultúrával foglalkozunk. A csoportok átlagosan 5 fősek és a cél az emeltszintű japán érettségi sikeres teljesítése.

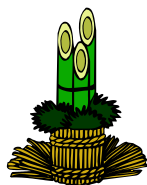
A japán oktatás nem ér véget az intézmény falai között. Iskolánkat minden második hónapban meglátogatják vendégelőadók vagy külső programok szervezésével igyekszünk még érdekesebbé tenni a tanulást a diákok számára.

Az április 20-án megrendezett Japán Nap az egész iskolát érintő napközbeni programsorozat volt, aminek a megszervezésében és lebonyolításában a diákok maradéktalanul részt vettek. Az igen színes program részét képezték az előadások, amiket egyetemi előadók és szakemberek tartottak. Az udvaron sportbemutatók voltak a legkiválóbb harcművészeti egyesületek közreműködésével.

ヨーロッパ 2000 高校では 2008/2009 学年から日本語コースの学生の努力のお蔭で始まり、次の夏から国際交流基金も三年間高校を援助する事になりました。日本語コースは全学級で週に四つの授業があります。そのうち二つは文法の授業で、二つは文化の授業です。一つのグループで約 5 人が勉強し、エーレツチャーギ卒業試験の上級を目標にしています。日本語コースをもっと面白くするために毎年二月に講師を招待したり、校外プログラムを学生たちと一緒にしています。去年の 4 月 20 日に日本の文化をもっと見せるために「日本の日」というイベントを学生と一緒に計画しました。このイベントは様々な講義や演武など、いろいろな方の協力で開催されました。

2011 年度 MJOT 運営委員会より

後藤史与(仏門大)



新年、

あ
明けましておめでとうございます



昨年 12 月 10 日に行われた MJOT 定例総会において、立候補・推薦により、2011 年度の新運営委員が選ばれ、1 月 3 日の第一回運営委員会で以下の通り役職・業務が決まりましたので、お知らせします。

会長：後藤史与(研修)、副会長：Kiss Sándorné Ilona (教材開発・出版)、
書記：小野久禎(会報編集)、会計：Horváth Krisztina (ML 管理・会費)、
メディア担当：Vagdalt Judit (MJOT の HP 管理)

ハンガリー日本語教師会は 2001 年 2 月 9 日に発足しました。発足当時、正会員は 24 名の小さい会でしたが、十年経った今、正会員は 44 名、準会員は 7 名、特別会員は 4 名、合計 55 名の大きな会となりました。2001 年 12 月に発行した『会報 1 号』を見ると、会員持ち回りで実施していた「研修会」や教育現場の問題を話し合う「座談会」の様子が窺えます。発足間もない翌年には「第 7 回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム」を AJE と共催で開催しました。そして、JICA/JOCV 撤退に伴い、青年海外協力隊が中心となって開催していた「日本語スピーチコンテスト」が 2004 年から MJOT の業務となりました。2007 年には日本ハンガリー協力フォーラム事業がスタートし、MJOT との協議の元で各種事業が実施されています。2009 年からは「日本語キャンプ」も始めました。

柿ロゴの MJOT 開発教材を見ても、これまでの歩みが窺えます。青色表紙の『Japán-magyar szógyűjtemény kezdőknek』の初版は 2003 年 1 月に出されました。2006 年 11 月に緑色のハン-日語彙集、2009 年 9 月にオレンジ色と赤の問題集、2010 年 6 月に黄色の仮名練習帳と、文字通り色々な教材

を作り、発行してきました。今年も新しい色の教材を発行する計画です。

この十年間、MJOT は活動範囲を広げ、活動内容を充実させてきました。これからも関係機関のご支援やご指導を受けながら、ハンガリーの日本語教育発展のために活動して行きたいと思っておりますが、これは会員皆様の積極的なご参加・ご協力があって実現できるものです。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。



スピコン実行委員会より

第18回日本語スピーチコンテスト

開催日 3月20日(日) 11時～17時頃

*3月19日は平日扱いになるので変更になりました。

開催場所 セント・ラーズロー高校

Szt.László Gimnázium

1102 Budapest, Körösi Csoma Sándor út 28-34.

スピーチ部門、パフォーマンス部門、展示部門、学生スタッフ等の応募締切は2月10日(木)17時です。

詳しくは www.supikon.hu をご覧ください。

(実行委員長：内川かずみ)

運営委員会より

1. 年会費の納入に関して

2011年の年会費をまだ納めていない会員は3月末までに以下の①または②の方法でお支払いください。

①現金支払

2月19日・20日実施の中東欧日本語教育研修会、または3月実施予定のフォーラム研修会において

②銀行振り込み

銀行名：AXA Kereskedelmi Bank Zrt.

銀行住所：1138 Bp. Váci út 135-139

口座番号：17000019 11561860 00000000

口座名：MJOT

口座名住所：1078 Budapest, Dob u.80, 1/12

(会計：H.クリスティナ)

2. 総会に関して

MJOT活動年度が2011年より9月～翌年8月となりました。従いまして、本年の定例総会は8月下旬から9月上旬に行いますので、よろしくお祈りいたします。(会長：後藤)

3. MJOT のホームページに関して

ホームページ (<http://mjot.hetedhet.info/>) を随時更新しています。MJOT のイベントや研修会の案内のほか、MJOT 開発教材一覧も載せてありますので、ご覧下さい。

(メディア担当：V.ユディット)

4. 会報に関して

今号より会報の編集を担当しております。毎号、各教育機関の日本語教育の様子を載せていきたいと思っております。会員皆様のご投稿をお願いします (hisayoshis@gmail.com)。また、こちらから原稿をお願いすることもあります。その際はどうぞよろしくお願いいたします。

(会報編集担当：小野)



Bálint Márton 小学校の皆さんから

「しんねん あけまして おめでと う ござい ます」